

# ふるさと散歩道 第二三八回

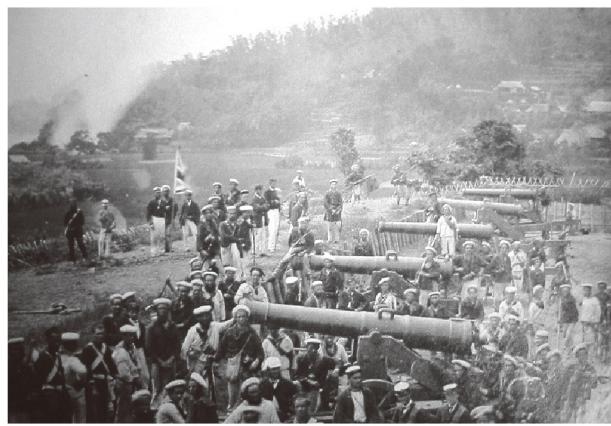
## 間部詮勝の時代（十六）

— 摂夷から倒幕へ —

摂夷を推し進める長州藩は京都政変や禁門の変でいたたんは失脚しますが、薩摩藩と同盟を結ぶことで幕府の長州征討軍を破り、逆に討幕運動を加速させています。

### 摂夷の実行

文久三年（一八六三）三月、上洛した十四代将軍徳川家茂は朝廷に対し、「五月十日をもって摂夷を行なう」と約束させられ、その旨を諸藩に通達しました。ただし、幕府は諸外国との戦争は多大な



イギリス軍に占領された下関砲台  
(長崎大学付属図書館蔵)

損害を被ることになると伝えており、英・仏・米・蘭にも摂夷を行なう意思がないことを伝えていました。ところが、尊皇攘夷運動の中心となっていた長州藩は、通

達どおりの五月十日、関門海峡を通る外國艦船を砲撃したのです（下関事件）。

薩摩藩も、同年七月一日、生麦事件の報復のために鹿児島湾に侵入した英艦隊と交戦しますが、鹿児島城下に大きな被害を出しました。摂夷が不可能なことを認識した薩摩藩は、これ以後、一転してイギリスとの直接貿易により軍備の充実を図っていきます。

### 暴走する長州藩

一方、あくまで摂夷を行なうとする長州藩は、京都における政局の主導権を握り、朝廷に多大な発言力を持つようになりました。このため、徳川慶喜や薩

### 長州征討

元治元年七月、禁門の変で御所に発砲した長州藩は「朝敵」と見なされ、幕府は長州征討を決定します。この頃、長州藩は下関事件の報復措置として英・仏・米・蘭の四国艦隊の攻撃を受け、下関砲台が占領されるなど窮地に陥つており、九月の第一次征討では交戦前に恭順の意を示して幕府軍と講和しました。しかし、慶応元年（一八六五）に高杉晋作らがクーデターを起こして長州藩に「倒幕派政権」が樹立されると、大村益次郎らの指導下で西洋式軍制を導入し、奇兵隊らの民兵諸隊を組織しました。この動きを見た幕府は第二次征討軍を派兵したのです。

### 大政奉還

戦勝によつて勢いづいた長州藩・薩摩藩による討幕運動が加速する中、公武合体を主張する土佐藩によつて政権の返上が提案され、慶応三年（一八六七）十月、十五代将軍徳川慶喜は徳川幕府を維持するためには政治の大権を天皇に返上しました。西洋式軍備で機動性に優れた長州軍は各所で幕府軍を圧倒したのです。

### 薩長同盟

禁門の変で長州藩と敵対していた薩摩藩は、西郷隆盛や大久保利通らが幕府政



15代將軍 德川慶喜  
(福井市立郷土歴史博物館)

（文化課 前田清彦）

【用語解説】  
生麦事件→横浜郊外の生麦村で、前薩摩藩主島津

久光の行列に騎馬の英国人が乱入り、殺傷された。

摩藩、京都守護職の会津藩が孝明天皇を動かして摂夷派の公家と長州藩を京都から追放しました（八月十八日の政変）。

これに対し、長州藩は元治元年（一八六四）六月、「藩主の冤罪を天皇に訴える」と、京都に軍勢を派遣して御所に侵入、警備の幕府軍と交戦しました（禁門の変）。

同盟を結びます。これにより、第二次長州征討軍には薩摩藩が加わらず、幕府軍の中岡慎太郎の斡旋によって長州藩と軍事

の戦略は大きな変更を余儀なくされました。さらに、旧態依然とした幕府軍に対し、西洋式軍備で機動性に優れた長州軍は各